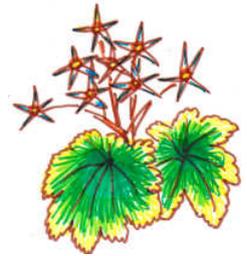


あの手この手で考えて、あの手この手で問題解決！

あの手 この手

2011
11
月号



花ことばは「節度」
名前は大和市の「大」に似た
形の花を咲かせることから。
—ダイヤモンドソウ—

あの手この手のマークの間のSは solution(解決)のSです。

大和市民活動センター[拠点やまと] 第52号 2011年11月1日発行



文字で表現する作品の2回目。どんな文字が隠されているかな？

文字絵 part2: 井上貴雄

<井上さんからのメッセージ>

今回は[拠・点・や・ま・と]を象のどっしりと頼りがいがあるイメージで、文字絵に表現してみました。市民活動センターが活動する人たちの心強い支援者であることを表しています。

井上貴雄(いのうえたかお)プロフィール
大和生まれの大和育ち。大学卒業後、教員を経て、農業をするとともに絵本作家として活動。「夢現スタジオ」代表。文字を使ったイラストが「タウンニュース大和版」に連載。



ぼくが「カッコフェスタ」のキャラクター
カッコちゃんだよ。会場で会おうね。



<送付の際、同封されているご案内>

*「あの手この手」は大和市民活動センターのH.P.ではカラーでご覧になれます。

- ・第 47 回連続共育セミナー「引地川にトンボが戻ってきた！」のお知らせ
- ・ボランティア見学会のお知らせ
- ・「情報交差点」



ハロウィンのカボチャも「Welcome」

市民の力を活かして運営している市民活動センターに ウガンダから視察団が来館

「ウガンダ北部地方行政計画能力育成」のJICA研修プログラムとして、10名のウガンダ県政府幹部職員とJICA現地職員1名が、10月5日(水)「センター」を訪れました。ウガンダはここ20年にわたる内戦で、行政機能が弱体化し、十分な予算・人材の無い中、効率的復興には「市民の力」「住人のニーズ」を柱とした、住民参加型の地方行政を進める動きが必要となり、研修のために来日。

「拠点やまと」会長の関根をはじめ、スタッフ全員が慣れない英語で、「ボランティア活動」「協働事業」「団塊の世代」「年金生活」「生涯学習」などを説明。なかなか理解できなかったようで、質問もたくさん出た。活動紹介で映し出された“おりがみ”を知らないというので、急遽、ツルを折って披露したら、「crane」という声。何と、ウガンダの国旗の真ん中の鳥もツルということがわかり、「Let's try!」「おりづる」でおおいに盛り上がりました。

にわか勉強しましたが…

直前のセンターはパソコン3台をインターネットに接続。「ウガンダ共和国はどこ?」ケニアの西側で首都は1300メートル高地にあるカンパラ。国土240万km²で本州くらい。人口3,300万人。などと皆で勉強。では「大和市民活動センターって?」またまた皆で集まってワイワイガヤガヤ。「センターのシンボルツリーの銀杏は英語で何?」。銀杏(Ginkyo)登録の際、誤植でGinkgoが学名英語だとわかったところに、ご一行様がバスから降りてきた。

「センター」のシンボルツリーの 大銀杏を見つけて…

事前にH.Pでセンターの大銀杏の写真を見ていたようで、帰る時に大銀杏を見つけ、「Ginkgo」「Ginkgo」と感激の様子。記念に写真を撮って、「では、また」と日本語で挨拶してバスに乗り込んだ。

アフリカの中央部に位置する
ウガンダ共和国



ウガンダ共和国の国旗

ヴィクトリア湖

「国旗のストライプ・カラーの意味は?」と聞いたら「黒は人間、黄色は太陽、赤は血の色だよ」と教えてくれた。カラーが2段になっているのは発展を意味しているとのこと。真ん中の鳥は「カムリツル」。

*「センター」のH.Pでは、カラーでご覧いただけます。



「共育」をコンセプトに「あの手この手」で考えて運営しています。



「拠点やまと」
関根会長

歓迎のハロウィンのカボチャ

当日、スタッフがハロウィンのカボチャを彫って、「カボチャもwelcomeと言っていますよ」と言ったら、拍手がわいた。

会場を盛り上げた
“おりづる”

元気に協働事業を展開しています

小田急線の電車からも見える「トーテムポール」～「緑野冒険遊び場ツリーガーデン」5周年記念～



トーテムポールが完成した「緑野冒険遊び場ツリーガーデン」

ここは野生児生産所

協働事業「冒険遊び場ツリーガーデン」も5周年を迎えることが出来ました。ここでは大人達が理想とする「よい子」は育ちません。自分で考え、自分で決定する、遊びのリスクは自分の責任で負う遊び場です。ここで遊ぶ子ども達は泥んこに汚れて汚く、全ての危険性を取り払ったような安全な遊びをしない危ない子ども達であり、そして大きな声で走り回るうるさい子ども達です。そして彼らは私達が想像もしなかった遊び方をします。そんな野生児生産所なのです。ここで遊んで育った子ども達が、自分の子どもを連れて遊びに来る、そんなことを私たちは夢見ています。そんな冒険遊び場にご賛同頂ける方がいらっしゃいましたら、ぜひ、ごいっしょに子ども達と遊びませんか。

(ツリーガーデン管理運営委員会 関根政人)

連絡先: 青少年センター Tel 046-260-5224

「せっかくやるなら喜んでやろう！」をモットーに

9/30(金)に第 46 回連続共育セミナーを開催しました

「市民活動を通してなんでもプラス」

～手と手をつなぐ地域ネット～

話し手は「なんでもプラス地域ネット」理事長 今井 功さん



[なんでもプラス地域ネット]の酒まんじゅうづくりは、平成 23 年度の市民活動推進補助金を受けて活動しています。

縦糸と横糸をつなげて、プラスの方向へ

私たちが住む大和市の公所(ぐそ)は新住民が増えてきた。古くからの地元の人の気質はシャイで、新住民とのつながりがなかなかもてない。お互いに助け合って生活の上のやりにくいこと、むずかしいことをプラスに変えて、住みよい人間関係をつくっていこうとNPOの活動をはじめた。

<人材ネットワークサービス>

入会金 500 円、年会費 500 円で会員になれる。現在会員数 60 人。会員はサービスを 500 円/1h で受けられる。非会員は 800 円/1h。有償で以下の事業を展開しています。

なんぷら農園、ぎんなん農園、雨水タンク設置支援、スクールエコリユース事業、室内環境測定事業その他庭の草取り、蛍光灯取り換え、蛇口交換、包丁研ぎ、ガラス取り換え、竹藪の伐採など。それぞれ収入の 2 割を活動費として団体に納めてもらっている。

<たまり場作り>

シネマサロン・なんでもサロン・ホームサロン・老人介護施設「シャローム」とのコラボでのコーヒーショップの運営・酒まんじゅうづくり・タオル帽子づくり(講師派遣)、ふれあいコンサートなどを通して人と人のつながりを大切にしている。

酒まんじゅうづくりでは、参加者の中で「自分も作れる。もっと簡単な方法で(麹発酵でなくイースト菌で)教えた」という人が現れた。しかし、昔ながらの方法で作るのが趣旨なのでお断りしようと思ったが、市民活動推進補助金の選考会でいっしょだった「麦の香り」に教えるのはどうかと提案したところ、イースト菌での酒まんじゅう作りが実現することになった。

<「セミナー」に参加してのひとこと>

- ・場所の提供がうまくいってうらやましい。わたしの地元自治会では場所を提供してくれる人がいない。今井さんは自治会長をしていたのでつながれた、と話された。
- ・介護保険が使えないような、ちょっとしたことを頼める先があることは、本当に心強い。他の地域にも広げてほしい。
- ・高齢者のなかでも、サラリーマンだった人で単身世帯の男性が地域に出てこない。なんとかしたい。



次回は私、飯塚がお話します

第 47 回連続共育セミナー

「引地川にトンボが戻ってきた！」

～継続した市民活動から見えてくるもの～

日 時: 11 月 26 日(土) 10:00～12:00

場 所: 大和市民活動センター会議室

話し手: 飯塚 栄子さん

引地川かわくだり実行委員会代表
柳とあそぼう引地川)トンボ調査隊員



10 月 27 日(木) 晴れ

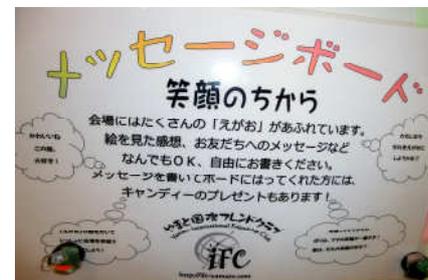
「センター」のフェンスに季節はずれの朝顔が可憐な花を咲かせている。濃紺の小さい花が寒風の中に凜と揺れている姿は、災害を経験した我々に元気を届けてくれているようだ。「カッキーフェスタ'11」まで咲いていて、来場者の目を楽しませてほしい。

アートフェスタ会場ではワークショップも…

会場では、被災地支援のために、「One Love Project」と名付けたワークショップを開催していました。おおぜいの親子がフュージングガラスを使ったクリップやマグネット作りを楽しんでいました。被災地へ思いを届けたくて、私も美しいガラスでマグネットをいくつも作りました。(M.I)

メッセージボードには…

『笑顔にさせる絵の力はすごい』
『笑顔ってみんなが幸せになれる』などなど



「第 4 回やまと国際アートフェスタ ～笑顔のちから～」

(やまと国際フレンドクラブ(IFC)主催)

10/22(土)、23(日)イオンモール大和で開催しました

今回の「やまと国際アートフェスタ」には、大和市内の小中学生から、「笑顔のちから」をテーマにした作品が 403 点応募がありました。展示会場は、「誰かを笑顔にするための絵」「見ていると思わず笑顔になれる絵」「笑顔になってほしい人のための絵」でいっぱいになりました。

来場してくださったみなさん、ありがとうございました。ご来場いただけなかった皆さんも、12 月末まで、WEB 展示会を実施していますので、ぜひご覧ください。(やまと国際フレンドクラブ(IFC)代表 長谷部美由紀)

やまと国際フレンドクラブ URL: <http://ifc-yamato.com>



長谷部美由紀さん



大和市民活動センター[拠点やまと]が制作発行する 月刊広報紙「あの手 この手」。

11月号(第52号)をお届けします。

「パ・イ・ナ・ツ・ブ・ル」。

家でぼんやりしていたら、子どもの大きな声が届いた。そして次に「グ・リ・コ」と違った声
がした。おや、これは懐かしい。今、仮住まいしている家の近くに大和市長緑野（みどりの）小
学校がある。ちょうど下校の時間だ。外を見たら、いたいた。狭い道に、4年生くらいの男の子
ふたりがじゃんけんをして、思いきり勢いをつけ歩幅を稼いで、今度は「チ・ヨ・コ・レ・イ・
ト」と言って、飛び跳ねて行ってしまった。

これ、確か「グリコ」というあそび。私も子どものころ、神社の階段などであそんだ。という
ことは60年以上も、ともかく生き延びているあそびだ。「グリコ」現役！ 今、目の前で子ども
が道路であそぶ「グリコ」シーンをつかの間見せてもらった。

こども環境学会前会長の仙田 満さんは「日本の子どもたちはこの60年間で自由で豊かなあそ
び環境を大幅に失ってきた。日本の子どもたちのあそび場は古くから道が中心だった。道によっ
て空き地も原っぱも森も神社の境内もつながっていた。」（朝日新聞 2009/12/03 付「子どもの劣
化」と指摘している。

学校帰りのわずかな「道の時間」、ここには決められた集団、空間、規則から「解放された時間」
があり、数ある「路地あそび」の中から子どもが自分たちで採用したあそびが今日は「グリコ」。

でもなあ……。今のこの子たちは自宅に帰ったらランドセルを放り出して、道、空き地、原っ
ぱで夕飯までの時間、思う存分あそび、「カラスが鳴くからかーえろ」では、おそろくない。そそ
くさと親のクルマに乗せられるなどして、次の予定、塾やスポーツクラブに通うのだろうなあと
思った。だいたいほとんどの道はクルマが占拠し、今や「空き地も原っぱも森も神社」も生活の
周辺からは消え、あってもそこは、あそんではいけない「あぶない場所」になってしまっている。

東日本大震災で私たちは多くのものを失った。今、震災から半年以上を経、地域復興の基礎と
なる土地利用の計画づくりが始まっているが、例えば「グリコ」ができるような、子どものあそ
べる「道」の復権、あそび場をつなぐ「路地」の回復という視点、子どもの今と未来を模索する
発想がほとんどないことに気づく。子どものそばに日常いる人たちが、土地利用の計画づくりに
参加し、子どもの「声」を生かした街づくりを提案し、そんなモデルが被災地に誕生したら……。

「グ・リ・コ」の声が、大人たちの深い喪失感に希望の光を点(とも)すことになるかもしれない。

記・小杉皓男[拠点やまと]広報係 2011/10/27

